

## 国語 (その一)

**第一問** 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私は、「宗教」とは「大きな物語」であると、久しく言い換えてきた。というのも、「宗教」という言葉があまりにも誤解にさらされて、その本来の意味をくみ取ることがむつかしくなってきたからである。

たとえば、福沢諭吉も、自身は無宗教者だが、『福翁自伝』の最後に、自分のやりたい仕事は、「全国男女の気品を次第々々に高尚に導いて真実文明の名に恥ずかしくないようにすること」と、仏法にても<sup>注1</sup>耶蘇教<sup>やそ</sup>にても<sup>いす</sup>執<sup>し</sup>れにても<sup>よ</sup>宜しい、これを引き立てて多数の民心を和らげるようにすること」等にある、とのべている。彼によれば、宗教は民心を和らげるための手段であって、それ以上のものではなかった。宗教に対して比較的同情的な見方でも、ここまでである。普遍的宗教によって、主体的で普遍的視野をもつ精神が形成されることなど、彼にとっては夢想さえできなかつたのであろう。

とにかく、「宗教」という言葉が無視されるようになったからといって、「宗教」がそれまで対象としてきた、人間にとってもっとも深くて困難な問題が解決されたわけではない。むしろ、「宗教」を軽蔑し否定することによって、人間のもっとも大事な問題を置き去りにしているだけなのである。私は、そこにいいしれない危

機を覚える。だからこそ、「宗教」に代わる言葉を、懸命に探し続けてきたのである。

<sup>A</sup>人は、もともと「意味」なしには生きられない動物だ。どんなに物質上の基礎があっても、日々の行為にはつきりとした「意味」が見出せなかったら、人はひどい無力感や<sup>B</sup>徒労感に襲われる。反対に、どんなに貧乏な日々であっても、前途に希望があるかぎり、貧乏に堪えることもできる。こうした、日常の暮らしに生き甲斐<sup>がい</sup>をあたえることができる「意味」を、私は「小さな物語」といいたい。つまり、私たちの日常が無事平穏に推移するのは、「小さな物語」がいくつも重なりあって、それなりの「意味」をあたえてくれているからである。

だが、人生には、「小さな物語」で対応しきれない悲劇や、不条理が生じる。なぜ私がこんな目にあうのか！ と、世界を怨む<sup>うら</sup>ような出来事が襲うことがある。そんなとき、「小さな物語」は役に立たない。その時、役に立つのが「大きな物語」なのである。常識をはるかに超えた時間軸と空間軸から成り立つ、壮大な人間救済の物語が現実味をもってせまってくる。

このような「大きな物語」は、人類史上古くから存在してきた。そして、聖書や経典という洗練された「大きな物語」をつくりだすにいたって久しい。

こうした、「大きな物語」が力を失って

## 国語 (その二)

きたのは、それらが教団という組織をつくり、墮落を極めてきたこともある。あるいは、近代西洋で発生した科学によって、物語の存在の科学的根拠が問われたこともある。だが、なによりも日本の場合、経済的繁栄のなかで貧富の差など大小の矛盾はあっても、現世だけで十分な快樂が得られるという幻想にとりつかれたことが、「大きな物語」を不要とするにいたった直接の原因ではないか。

現代の日本人の多くは、「今だけ、自分だけ、金だけ」を合言葉に生きているという。そこでは、不条理や不幸が自分に襲いかかることはない、自分は強運のはずだという思い込みをたよりに生きているのであり、万一不条理や不幸に襲われても、自分は不幸な運命にあったのだとあきらめて、それを解決する智慧<sup>ちえ</sup>を得るよりも、忘却だけをたよりに生きようとしている。わが身を襲う、不条理や不幸、不安を解決しようという気力が失われて久しいのではないか。人は、「**イ**」なのである。わが身を振り返る余裕が、すでに失われて久しい。「末世」とは、こういう時代をいうのであろうか。

たしかに、「大きな物語」に向きあうためには、エネルギーがいる。わが身を襲う不条理や不安、不幸に耐えるだけでも、エネルギーがいるのに、その上、「大きな物語」と向きあうことは容易ではない。しかし、「大きな物語」に向きあえば、時間は

かかっても、「意味」を喪失した人生に新たな「意味」が見出されて、文字通り新しい人生がはじまる。

人間は、解決の困難な不条理をかかえて生きざるをえない動物だが、同時に、そうした不条理を克服できる道もまた発見してきた存在である。人生を、いかに納得して生きてゆくのか。それは、生きる上で最大の課題であり、もっとも緊急な課題である。だが、現代という時代は、それから逃れて不条理を見ないことにして生きようとする。見ないこと、ないことにすることと、解決することとは大違いである。

かつて私は、『日本人はなぜ無宗教なのか』を刊行して、日本人が、なぜ「無宗教」という精神状況で平気であることができるのか、をめぐっていきさか考察してみた。「無宗教」は、けっして「無神論」や決定的な宗教否定論ではない。むしろ、なにがしかの関心はあっても、深くは関係したくないという消極的な精神の表現なのだ。そうした判断が生まれる背景には、強大な教団に統率された羊のような信者の姿があり、まじないというしかないことに**□**を抜かしている人々がイメージされているのであろう。そして、自分だけはそのような愚かな人間に成り下がりがたくない、という思いだけが強いのかもしれない。

だが、なによりも問題は、明治政府があ

## 国語 (その三)

らたな政体を発足させるに際して、天皇を頂点とする、のちに「国家神道」とよばれるようになる政治宗教を創出して、その後の日本人の精神を支配した歴史にある。そこでは、いわゆる「創唱宗教」のすべてが「国家神道」によって抑圧され、自由な考究や信仰が妨げられてきた。その状況は、「国家神道」が解体されたからといってなくなったわけではない。<sup>注2</sup>益田

勝実のいうように、天皇制が存続しているということがとりもおさず、「国家神道」を生み出した精神的土壌が健在だという証拠にはかならない(「神道」)。

もちろん、「国家神道」は、たんに強制されたというような、単純な理由から浸透したのではない。民衆の方にも、国家が強要する「国家神道」を喜んで受け入れる素地があったのである。それが、なんどもいうように、日本人の間にひろがっている「自然宗教」にほかならない。「自然宗教」は、「物語」としては「大きな物語」というよりは「小さな物語」に属している。「無宗教」でよいということは、「大きな物語」は必要ではなく、「小さな物語」でこと足りている、ということなのである。つまり、「大きな物語」は、日本人の精神史では抑圧され続けてきた、ともいえるのではないか。福沢諭吉の開明的な無宗教主義は、「大きな物語」の「抑圧」のなかで生まれた鬼子でもある。

(阿満利磨『日本精神史——自然宗教の逆襲』による)

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えています。

注1 耶蘇教 キリスト教のこと

2 益田勝実(一九二三〜二〇一〇)国文学者

問一 傍線部A「人は、もともと『意味』

なしには生きられない動物だ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 人間は、自分ひとりだけがひどい目に遭うということをとんでも我慢することができない自己中心的な存在であるから。
- ② 人間は、何かにすがって生きるのではなく、主体的で普遍的な視野を持って生きることが希望する存在であるから。
- ③ 人間は、物質的に満たされることよりも、精神的に満たされることのほうが重要であると考えている存在であるから。
- ④ 人間は、ただ日常の暮らしを平穩に生きているだけでは満足できず、生きるための支えを必要とする存在であるから。

## 国語 (その四)

⑤ 人間は、社会的な動物であり、自分一人の幸福だけではなく、人類全体の幸福について考えている存在であるから。

③ 現代の日本人は、「無神論」のもとで、来世の存在を否定し、現世だけがすべてであると思いついで生きているから。

問二 傍線部B「徒労」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

④ 現代の日本人は、見ないことと解決することは違うということが分からず、問題は解決したと考えて生きているから。

① 困難に出会い、狼狽すること。  
② 逆境に立たされ、不安に思うこと。  
③ 生き甲斐を見失い、自暴自棄になること。

⑤ 現代の日本人は、貧富の差が厳然と存在し、だれもが快適な暮らしを送れていないことを知らずに生きているから。

④ 希望をなくし、やる気を損なうこと。

問四 空欄イに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

⑤ 苦勞したことが報われないこと。

問三 傍線部C『大きな物語』が力を失

ってきた」とあるが、「日本」の場合、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

① 信じてなんぼのもの！  
② 孤独な存在！  
③ 考える生き物！  
④ 夢を食べる動物！  
⑤ 死ねばおしまい！

① 現代の日本人は、道理に合わない不条理を解決し、人生をいかに生きていくべきかがわかったと思いついで生きているから。

問五 空欄口に入れるのに最も適切な語を、ひらがな三字で答えなさい。

② 現代の日本人は、経済的繁栄のなかで、不条理や不幸などを解決しようというような思いを持たずに生きているから。

問六 波線部「大きな物語」とあるが、これはどのようなものか。五十字以内(句読点なども字数に含む)で説明しなさい。

## 国語 (その五)

問七 本文の内容と合致するものを、次

の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 明治政府が創出した「国家神道」は、キリスト教などのように日本人を救済することのできる壮大な物語である。
- ② 現代日本で「大きな物語」が顧みられない最大の原因は、強大な教団をつくり、そこに安住していることにある。
- ③ 福沢諭吉は、自らの本の中で、「宗教」とは人間を迷わせるだけのものであるとして、全面的に否定している。
- ④ 人生を、いかに納得して生きてゆくのかを考えるためにも、不条理に向き合って生きていかなければならない。
- ⑤ 「国家神道」が解体された現代日本においては、今までのような「大きな物語」を抑圧することはなくなった。

## 国語 (その六)

**第二問** 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

日常生活世界を社会学の主題にと主張したA・シュッツは、オーストリア生まれで第二次大戦時、ナチスの迫害を逃れアメリカに亡命した知識人の一人でした。

なぜ彼は日常性に注目したのでしょうか。彼は大学という<sup>A</sup>象牙の塔<sup>どうげ</sup>にもつて研究したのではなく、昼間は銀行員として働き、夜に大学で研究し教育したというユニークなキャリアを持っています。彼の学問的営みや人生を詳細に調べ論じた学史の<sup>①</sup>チクセキは豊かですので、詳しく知りたければ、それらを読んで欲しいと思います。

私は、シュッツの人生を知り、彼の中に鋭くかつ優しい「異邦人のまなざし」があったからこそ、日常性という宝箱を発見し、その中身の面白さを私たちに示すことができたのではと思っています。

その異邦人のまなざしとは何でしょうか。それは、普段私たちが他者とともにさまざまに作り上げ、生きている、多様な日常という現実を「驚きの眼」でもって、今一度眺めなおす力とでも言えるかもしれません。

たとえば私たちは、海外へ旅行すれば、期間限定であれ「異邦人」になることができます。最近、私はマレーシアの首都クアラルンプールとマラッカを旅してきました。

た。日中の気温二五度、湿度七〇〜八〇％以上。夕方スコールが降っても一〇〇％の湿度になるだけで、爽快感<sup>そうかいかん</sup>などない気候に身体はしっかりとやられてしまいました。したが、楽しい「驚き」に満ちた数日間でした。

(中略)

もちろん、外国に行かなくても、私たちは「異邦人のまなざし」でもって、普段の暮らしや現実のさまざまな部分に「驚く」ことができます。

たとえば私は、毎日大学に向かう電車の中で、常に「驚いて」います。通勤通学ラッシュの中、大半の人が黙々とスマホ画面を眺め、指を忙しそうに滑らせています。私は、この光景を異様に感じ、見事な「画一さ」にいつも驚いています。もちろんスマホがだめだなどと言っているのではありません。【1】ただ狭い車内で、自分の立ち位置を決めた瞬間、周囲の人への関心を<sup>②</sup>「斉に<sup>③</sup>シャダンして」スマホバリアー<sup>④</sup>で守られた世界へ人々が没入していく姿は私にとって、いつも驚きなのです。

かつては、新聞を四つ折り、八つ折りにして顔を近づけ無心に読む姿や週刊漫画雑誌を丸めて読む姿が中心でした。<sup>B</sup>新聞や雑誌を読む姿とスマホに没入する姿は同じなのでしょうか。【2】それともまったく異質な日常を生きる私たちの姿が、できあがっているのでしょうか。同じよう

## 国語 (その七)

に見える混んだ車内の光景ですが、私はこの二つはかなり意味が異なっていると考えます。

新聞や雑誌は、確かに私たちはそれを読みたいから読むのですが、見方を変えれば、これらは、身体が触れあうぐらい混んだ狭い車内で、お互いが儀礼的に距離をとり、特別な興味や関心がないことを示し、相手に対して距離を保っていることを示す重要な道具と言えます。新聞や雑誌を読んでいても、周囲の音や隣の人姿勢や動きなど細かい状況はわかるでしょう。【3】その意味でこうした道具は、それに目を落としていても、常に周囲の他者の気配は感じ取れるし、私たちは常に周囲に気を配っているとも言えるのです。つまり、新聞や雑誌は、自分の周囲に“バリアー”を張る道具ではなく、周囲の他者とつながるための道具なのです。

他方、私たちはスマホを通して、混んだ車内でもそこにいない他者と交信したりゲームを楽しんでいます。いわばスマホは、「今、ここ」で全く異質なリアリティへ瞬時に④チョウヤクできる驚きのメディアなのです。□イスマホは、新聞や雑誌に比べ、小型軽量であり、周囲に迷惑もかけずに私たちは「混んだ車内」で操作ができます。イヤホンやヘッドホンをし、周囲からの音をさえぎり、視線をスマホの画面に集中させるとき、私たちの心や関

心は「今、ここ」にはないのです。【4】端的に言えば、スマホは、それを使って多様なリアリティを自在に移動できるとしても、新聞や雑誌のように「今、ここ」で儀礼的に周囲に無関心を示したり、距離をとるための道具ではないのです。

混んだ車内の二つの光景。一つは、新聞や雑誌を読みながらも、常に周囲の他者に対して儀礼的に無関心を示し、身体が密着しているとしても、そこに安心な距離があることを示しあう秩序が「今、ここ」で作られ維持されている空間です。【5】そして今一つは、それぞれがスマホに没入することで、「今、ここ」に居ながらも、個別のリアリティのチョウヤクを楽しんでいる空間です。□ロ、そこは、儀礼的に無関心を⑤装いに常に他者との安心な距離への気配りに満ちているのではなく、まさに周囲の他者への関心を喪失し、安心な距離を保つための儀礼を微細に。実践することさえ怠っている人々の身体が満ちている空間なのです。

通勤通学での混んだ車内という、思いっきり「あたりまえ」で日常的光景を詳細に読み解いてみました。そこには、他者とながるうえで、ふりかえって考えるべき興味深い問題を私たちが生きていることがわかります。

私たちが何気なく見ている日常的光景。繰り返し流されるテレビコマーシャル。思わず感動して涙を流してしまう映画や

# 国語 (その八)

ドラマ。ワンパターンのフレーズや身ぶりをこれでもかと繰り返し、なかば強制的に笑いを取っていかうとするお笑いタレントたちのトークショー。さまざまな事件を伝え、私たちの日常への危機感をおおるワイドショーや雑誌報道等々。数え上げたらきりがありませんが、日常生活世界になんらかの意味を与えている多様な「あたりまえ」の場面のなかにこそ、私たちが日常生活世界を詳細にふりかえって捉え直すきっかけに溢れているのです。

(好井裕明『「今、ここ」から考える社会学』による)

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えてあります。

問一 傍線部①～⑤のカタカナは漢字にし、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 傍線部A「象牙の塔」の意味として、最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 知的好奇心にあふれた面白い世界。
- ② 学問の中心となる実践的な世界。
- ③ 現実から離れた閉鎖的な世界。
- ④ 情がなく知性のみに偏った世界。
- ⑤ 経済観念の希薄な非日常的な世界。

問三 傍線部B「新聞や雑誌」とあるが、筆者はこれらをどのようなものだと捉えているか。本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問四 空欄イ・ロに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① つまり                      ② さらに
- ③ たとえば                  ④ ただし
- ⑤ または

問五 次の文を本文の本来あった箇所に戻す場合、最も適切な箇所を、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

これもまた、私たちが普段「あたりまえ」に電車に乗るための重要な実践知と云えるのです。

- ① 【1】                      ② 【2】                      ③ 【3】
- ④ 【4】                      ⑤ 【5】

問六 傍線部C「実践する」とあるが、「実践」の対義語として、最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 詭弁                      ② 鑑賞                      ③ 規範
- ④ 主題                      ⑤ 理論



## 国語 (その九)

### 問七

本文の内容と合致するものを、次

の①～⑤のうちから一つ選び、番号で  
答えなさい。

- ① 海外に旅行をすれば、日常とは異なる体験をすることができ、日本での生活も新鮮なものになる。
- ② 通勤通学の満員電車の中では、スマホでゲームをするのではなく、新聞や雑誌を読むべきである。
- ③ 異邦人のまなざしを持つことで、「あたりまえ」に驚き、日常生活世界を捉え直すことができる。
- ④ スマホは多様なリアリティを自由自在に移動でき、より深く「今、ここ」を捉えることができる。
- ⑤ 自分の周囲に「バリアー」を張る道具であるスマホを使用することとは、やめなければならない。

## 国語 (その十)

### 第三問 次の文章を読んで、後の問に答

えなさい。

歌舞伎の見方は、役者を見るか、劇として見るか、の二つだ。本当は、思い切つて、「芝居の筋なんか追わないで、役者を見るのが歌舞伎だ」、と言つたほうがすっきりしているのだが、そこまで言うとは演劇としての歌舞伎の土台を掘り崩すことになりかねないから言わない。

いや、その言い方だと、やはり重要なところで間違つている。歌舞伎は見世物だが、その世界に「ドラマ」という筋が通つていなければ、次々目先を変えるサーカス、手品と同じになってしまう。

例を挙げて説明すると、「寺小屋<sup>てらこや</sup>」という、義太夫狂言がある。この「寺小屋<sup>てらこや</sup>」では、松王丸<sup>まつおうまる</sup>という主人公が、悪人側に荷担したふりをして計略を図り、主君の若君の身代わりに我が子を仕立てて首を打たせ、素知らぬ顔で、悪人側の使者として、その首を検分に行く。ややこしいようであるが見ていれば単純である。「悪人実は善人：」と言うだけで、手の込んだハリウッド映画などよりずっと簡単である。

それを見に行く観客は、皆、松王丸の計略を知つていて歌舞伎を見に行く。プログラムにも、詳しくネタバレはばらされていく。結末が分かっているのは歌舞伎にとつて織り込み済み、ということだ。<sup>A</sup>普通の意味での、サスペンスはない。

それでも見に行くのは、芝居の筋立てにあらためて興奮するわけではなく、まずは松王丸を演じる「役者」を見に行くのである。役者が、ゴホゴホ咳<sup>せき</sup>をしたりするのが本物らしいかどうか、そんな細かなところを見ながら、着ている衣装の「雪持ち松」のデザインの刺繡<sup>ししゅう</sup>が豪華だ、とか、一部分を楽しんだりする。<sup>B</sup>漱石<sup>せき</sup>が書いている「局部」である。

もう少し通ならば、その松王丸の演じ方に関して伝承されてきた「型<sup>かた</sup>」（規範となつている演出）を、見事にやりおおせているかどうか、を見る。若手だったら、「まだまだだな」、とか、<sup>①</sup>ロウレン<sup>ろうれん</sup>の役者だと「迫力はなくなってきたがまだまだいける」、とかつぶやきながら。ここまで行かなくても、全体を眺めながら、細部が生きてくるのを待つ。具体的には役者が大きく動き、声を張り上げ、<sup>注</sup>ツケ<sup>つけ</sup>が打たれたりする場面がやってくるのを楽しむのだ。

これは一般的に歌舞伎を見るときに秘訣<sup>けつ</sup>である。魚釣りのようにぼんやりと眺めて、かかるとを待つ。しかし、そうもいかないのは、あなたが歌舞伎に合わないからだけではなく、<sup>c</sup>昨今の歌舞伎自体にも責任がある。この「寺小屋」を初めとする演目が、歌舞伎に移される前の文楽（人形浄瑠璃<sup>じょうるり</sup>）で演じられるときは、さほど面白くない、と言われたりしないのは、実際の理由として、上演時間が短いこと

## 国語 (その十一)

がある。時間の長短は、面白い面白くないとは本質的には関わりがないように思えるが、短いほうが中身が詰まってくるし、見ているほうは体が楽だ。

この、歌舞伎と比べて同じ演目でも文楽のほうが上演時間が短いのは、元々、「寺小屋の段」という一続きの音楽、一曲として作られているので、演奏が始まったらすすいと進んで、一片の物語が語られて終わるからだ。

それが歌舞伎では、義太夫語りが語って、それを役者が継いでセリフを言い、途中で②見得を切ったりする。一人の浄瑠璃語りが一人のパフォーマンスとして行うのではなく、複数の役者がそれぞれ、自分の見せ場を作りたいものだから、昔から代々の役者が一つ一つの役に工夫を加えたのが積み重なって、いまや「型」と「芸」が堆積している。

もちろん、型は偉大なものだし、達しなければならぬ芸も高いところにあるから、先人の工夫を全部取っ払って、なんていう乱暴者はいない。「一生修業です」とかしこまるわけだ。

しかし、これに対し乱暴な観客として言えば、校長の訓示のように、終わるかと思ったらまた始まる、といったらだら感を押しつけられるのは時にたまらない。いや、それでも上手い人がやると、長い時間が持つのだが、それはいわばあたり前で、普通の役者がやっても面白くしなけ

れば、歌舞伎はもういいや、と思われて、根こそぎ飽きられても仕方ないだろう。

ということでは、D歌舞伎は上手い役者の局部を見る、ということになりそうだが、それだけで終わるとやはり間違っている。歌舞伎の見方は、役者を見るだけでなく、劇を見る、の二つ目もあるからだ。今日の歌舞伎はよかった、という場合には、役者の芸を堪能した、というときと、今日の話、お芝居が面白かった、という二つがあるから。

歌舞伎は出雲の阿国おくにの歌舞伎踊りから始まって、というお話はしないと最初に書いていて、いまからしようというのはないのだが、源流にあった「踊り」の華やかさはいつも歌舞伎を③彩っている。楽しい気分劇場をあとにする、というのは、歌舞伎見物の基本である。

しかし、じっくり悲しみがしみ入る気持ちになるときもあって、それは、局部だけではなく、芝居全体に感動したときである。舞い踊りは歌舞伎の華だが、浄瑠璃の語りに心動かされるのは昔からあったことで、そこに明治以降の西洋の演劇からの影響が加わって、ドラマ性というのもまた歌舞伎の基本であり、それを感じ取るのもまた、歌舞伎の見方の一つになるのだ。漱石は、そのドラマ性がいかにも弱い、と感じて、歌舞伎への暴言にもなるのだが、ま、英文学者としてシェークスピアが④ネットウにあつたら、歌舞伎をその

## 国語 (その十二)

日暮らしの享楽性の塊と決めつけてしま  
うのも無理からぬところかもしれない。

でもシェークスピアよりよほど、色気

ありますよ、歌舞伎には。享楽性と深刻さ  
の二兎を追う、という無理を承知で歌舞  
伎はこれまで四百年もの歴史を刻んでき  
たので、なかなか一筋縄で決めつけるこ  
とは出来ない。しかし、専門家や有識者の  
中には、歌舞伎を今後の長期低落傾向か  
ら救うには、浄瑠璃の物語や、歌舞伎とし  
て始まった狂言を、いまみたいにぶつ切  
りにして、面白いところだけ一晩に四つ  
並べてみせる、という「見取狂言」の方式  
を批判する人が多い。<sup>E</sup>「続きの演劇  
として復活させよう、というのだ。

そうすると、初めて見る人も、「演劇」  
として **イ** した物語を与えられ、首を  
ひねることもなく、局部に<sup>6</sup>コウデイして  
いる通につき合って、素晴らしい瞬間が  
来るのを、魚釣りのように待たされるこ  
ともない、というわけだ。

それがよいのかどうか、ここは難しい  
ところで、僕にも結論はない。

(船曳建夫『歌舞伎に行こう！ 手とり  
足とり、初めから』による)

※ 問題作成上の都合で、原文の一部  
に手を加えています。

注 ツケ 舞台上<sup>かみて</sup>手で、役者の動作に  
合わせて、拍子木で床をたたくこと

問一 傍線部①～⑤のカタカナは漢字に  
し、漢字は読み方をひらがなで書きな  
さい。

問二 傍線部A「普通の意味での、サス  
ペンスはない」とあるが、これはどう  
いうことか。その説明として最も適切  
なものを、次の①～⑤のうちから一つ  
選び、番号で答えなさい。

① 演劇としてどのように評価がで  
きるのかということに対して、観  
客は関心があるわけではないとい  
うこと。

② 歌舞伎はどのような見方をすれ  
ばよいのかということに対して、  
観客は迷いをもっていないという  
こと。

③ 役者がどのような演技をするの  
かということに対して、観客は注  
意を払っているわけではないとい  
うこと。

④ 物語がどのように展開していく  
のかということに対して、観客は  
緊張を覚えるものではないという  
こと。

⑤ 型がどのように伝承されている  
のかということに対して、観客は  
心配しているわけではないという  
こと。

## 国語 (その十三)

**問三** 傍線部B「漱石」とあるが、「夏目漱石」の作品を、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 『高瀬舟』
- ② 『明暗』
- ③ 『十三夜』
- ④ 『破戒』
- ⑤ 『鼻』

**問四** 傍線部C「昨今の歌舞伎自体にも責任がある」とあるが、なぜこのように言われるのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 昨今の歌舞伎は、演目が面白くな  
く、役者の演技を見るだけのもの  
になってしまっているから。
- ② 昨今の歌舞伎は、型や芸の伝承が  
できておらず、役者の質の低下を  
招いてしまっているから。
- ③ 昨今の歌舞伎は、上演時間が長く  
なり、だからだと間延びしたもの  
になってしまっているから。
- ④ 昨今の歌舞伎は、役者を見るのか、  
劇を見るのか、判断できなくな  
ってしまっているから。
- ⑤ 昨今の歌舞伎は、プログラムなど  
でネタが詳しく説明され、結末が  
わかってしまっているから。

**問五** 傍線部D「歌舞伎は上手い役者の局部を見る」とあるが、これは「見世物」としての「歌舞伎」のどのような特徴を説明したのか。本文中から三字で抜き出して答えなさい。

**問六** 傍線部E「一続きの演劇として復活させよう」とあるが、これにより何を取り戻そうとしているのか。本文中から四字で抜き出して答えなさい。

**問七** 空欄イに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 一致団結
- ② 換骨奪胎
- ③ 首尾一貫
- ④ 日進月歩
- ⑤ 千変万化

**問八** 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 型とか芸の伝承は、日本文化の伝承でもあり、退屈であっても耐えて観なければならぬものである。
- ② 歌舞伎は、ひいきにしている役者の芸を見ることができればそれでよく、筋などなくてもかまわない。

## 国語 (その十四)

- ③ 夏目漱石は、イギリスに留学し英文学を学んだため、日本文化の良さがわからなくなってしまっている。
- ④ 現代の日本人は、歌舞伎のもっている面白さを感じることができず、観客は減少の一途をたどっている。
- ⑤ 歌舞伎見物には、役者の芸を堪能することと、劇として面白さを感じるということという二つの方法がある。